はやま通信

≪学校だより学学号≫
令和５年10月19日発行
栗東市立葉山小学校
児童数３９７名10/19現在

教育目標　はっきり話し、しっかり学ぶ　葉山っ子　やさしさあふれる　葉山っ子　まいにち元気な　葉山っ子
重点目標　～自ら学び、自分の成長を実感しながら、仲間とともに伸びようとする子の育成～

「全国学力・学習状況調査」の結果について

令和５年４月、６年生を対象に文部科学省による「全国学力・学習状況調査」を実施しました。調査は６年生のみです。この度の結果より、今後の取組とお願いについてまとめましたのでお知らせします。家庭・地域・学校が連携していくための資料にしていただきますようお願いします。なお、本調査により測定できるのは、特定の学力の一部分です。本校では、「教育目標」に掲げているように、他の教科・領域も含め、総合的に学ぶ力の育成をめざしています。

１「教科に関する調査」結果より

【国語科】◎「強み」…目的を意識して、中心となる語や文を見つけて、書かれている内容として適切なものを選ぶことができる。

△「弱み」…文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して書くことができる。

【算数科】◎「強み」…簡単な計算問題を解くことができる。

△「弱み」…求め方や答えを、式や言葉を用いて記述することができる。

２「質問紙調査」結果より

学習時間、生活習慣、授業改善等に関する質問について、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」等、段階的な選択肢から選ぶ調査です。全国平均と比較して良好なもの・改善を要するものは下記の通りです。

◎　全国値と比較して良好なもの	△　全国値と比較して改善を要するもの
◎「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の質問に対して、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と肯定的に回答した児童の割合は９７．４％で、全国平均より１．５ポイント高い。また、「友だち関係に満足していますか」は、88.3%であった。	△「自分には、よいところがあると思いますか」の質問に対して「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童の割合は７６．７％で、全国平均より６．８ポイント少ない。

◎「強み」…周りの友だちと楽しく過ごし、前向きな気持ちで落ち着いた学校生活を送れている。地域の行事などにも、積極的に参加し、その経験が「人の役に立つ人間になりたい」という思いを抱く一因となっている。

△「弱み」…自分のよさに気づくことが難しく、自信がもてない。自己肯定感の低い子どもが多い。

我が校の「学ぶ力向上策」

本校では、「読み解く力」の育成に重点をおいた３つの視点から、我が校の「学ぶ力向上策」を策定し、昨年度から継続して取組を進めています。学学調査を終え、各学年ごとに子どもたちにつけたい力について考えました。今後学年に応じて、取り組んでいきたいと思います。

視点① 学びを実感できる授業づくり	視点② 学ぶ意欲を引き出す学習集団づくり	視点③ 子どものために一丸となって取り組む学校づくり
○「できた」「わかった」「考えられた」と子ども達が実感できるよう、日々の授業改善に努める。 ○子ども一人ひとりの学びの状況を的確に把握し、その状況に応じた指導の充実を図る。	○自分も友だちも安心して過ごしたり、互いを認め合ったりできる学習集団をつくる。 （自分の思ったことをはっきり話すことができる）	○日常的にOJT（職場内研修）を活用し、お互いを高め合える教員集団をつくる。 ○学年で子どもの実態を話し合って重点目標を毎月決める。職員が一丸となってよりよい学校づくりを行う。
今後の具体的取組事項（学年に応じて行っていく）		
○めあてとふりかえり 毎時間めあてを設定し、達成できたかどうかの児童によるふりかえりを行う。 ○学習活動の工夫 自分の思いや考えを進んで表現したり自分たちで課題を解決したりできるように学習活動を工夫する。		

保護者・地域の皆様にお願い

～自己肯定感を高めるために～

保護者の皆様には、「はやま家学(いえがく)ウィーク」「はやまっ子元気いっぱい計画」の実施にご協力いただき、ありがとうございます。今後も家庭・地域・学校で、下記のような認識や取組を共有し、「全国学力・学習状況調査」の結果から明らかになった課題の解決につなげていきます。ご協力をよろしくお願いします。

自己肯定感を高めることは、生きていくうえで大切です！！

「自分にはよいところがあると思う」について、肯定的に回答している子どもの割合が低いことがわかりました。ここ数年、自己肯定感の低さがみられます。葉山小では、非認知能力（自分を高める力・自分と向き合う力・他者とつながる力）育成と自己肯定感（自尊心）の向上には、深い関わりがあるのではないかと考えています。非認知能力とは、点数で表すことはできませんが、これから生きていくために必要な能力と言われています。これまでの教育活動の中でも大切にしてきたものですが、全教育活動で、このことを意識化し取組を積み上げることで、子ども自身が自分の成長やよさを実感できると考えます。葉山小では、更に自己肯定感の向上をめざし、非認知能力の育成についても研究を深めていきたいと考えています。